

岩手県職労

2022新採用加入対策

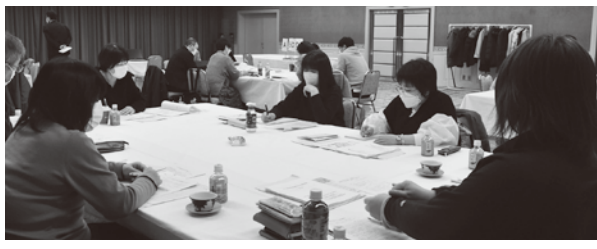
自信もって「組合入ろうね」声掛けを

自分の言葉で「組合の良さ」アピールを

2月19日、自治労県本部主催の新採用加入対策会議がサンセール盛岡で開催され、県職労から支部・青年婦人部組合員を中心に31人が参加した。



▲香川県職連合と山形県職連合の取り組みをWEBで共有した新採用加入対策会議



▲県職労対策会議のグループ討論



▲青年婦人部グループの発表

「青年部の説明では、事前に青年部員で打ち合わせをして意見を出し合い、自分で説明できるようにした。また説明しても加入しなかった新採用には活動を見せたい」と、青年婦人部でも「若い時」の問いに、「自分では説明できるような説明内容を持つこと。自分なりに説明する経験を積み上げる。それを青年の仲間が補強しあうこと」。「新採用がどのようにな事を知らずか聞いて、学習会

香川県職連合と山形県職連合の新採用加入促進の取り組みをWEBで共有した。香川県職連合から「新採用者の反応を分析し、反応に応じて本部・支部・青年女性部が連携して粘り強く声掛けを進めている」ことを紹介。山形県職連合からは「先輩組合員自身が主体的に勧誘する動きになっている」とし、組合員の主体的な行動が重要との紹介があった。

参加者から、「組合員が主体的に説明できるようにするためにどう展開したらよいか」、「青年婦人部でも取り組んでいるが、説明が難しい時」の問いに、「自分であればこれが重要だ」という説明内容を持つこと。自分なりに説明する経験を積み上げる。それを青年の仲間が補強しあうこと」。「新採用がどのようにな事を知らずか聞いて、学習会

組合員の行動で仲間を作ろう 県職労対策会議

県職労新採用加入対策会議では、支部新採用加入促進対策会議の実施などの方針を提起し、新採用職員への声掛け実践としてロールプレイなどに取り組んだ。各グループから「組合費

月2回刊=号外
2022年2月28日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所 盛岡市内丸九番1号 岩手県庁内 岩手県職労労働組合 印刷所 盛岡市上田二丁目17-4 有限会社 ジョー印刷企画 一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

2022年度 県職労役員選挙

全員が信任 新体制を確立



中央執行委員長 小田嶋 智 昭 (胆江支部 土木部分会)

県職労2022年度役員選挙は2月18日投票、24日に開票が行われ、その結果、立候補者全員が信任され新体制が決まった。中央執行委員長は、小田嶋智昭さん(胆江支部・土木部分会)が新任、副中央執行委員長に小澤豊和さん、再任、佐々木辰治さん新任、



副中央執行委員長 佐々木 辰 治 (県庁支部・建築住宅課部分会)

書記長に佐々木真由美さん(盛岡支部・県税部分会)が新任、書記次長は藤村秀樹さん(盛岡支部・保健福祉環境部分会)が再任された。2022年度も私たちの



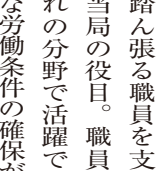
書記次長 藤 村 秀 樹 (盛岡支部・保健福祉環境部分会)

中央執行委員は、鍛形幸平さん(久慈支部・久慈農業改良普及センター分會)、須藤開さん(釜石支部・水産部分会)が新任された。2022年度も私たちの



中央執行委員 鍛 形 幸 平 (久慈支部・久慈農業改良普及センター分會)

賃金・労働条件、職場環境改善のために、県職労は組合員の結集で取り組みを進めていく。是非、皆さんのご協力をお願いする。



中央執行委員 須 藤 開 (釜石支部・水産部分会)

の組合員が従事し、岩手の畜産と食の安全を守った。一人が欠けただけでも成しえなかったものだ。現在も続くコロナ感染症対策も同様といえる。しかし、その頑張りには報いる勤務・労働条件となっていない。このため職員は疲弊する一方。これでは県組織は持たない。岩手のために頑張りましょう。職員がそれぞれの分野で活躍できるように労働条件の確保が急務だ。

鳥インフルエンザ防疫業務

勤務上の諸課題は 県職労へ

2月12日、当県初の養鶏場での鳥インフルエンザの感染が確認。現地である県北局はもとより、全県から防疫作業(と殺・埋却・消毒)への従事のため職員の動員が行われた。多くの組合員が極寒かつ厳しい勤務環境での作業を余儀なくされた。また、週休日からの動員であったため、当局の勤務労働条件の整理が後手となった問題が生じた。

当局は、2月14日、防疫作業に従事する職員の勤務時間に関し、勤務時間の割り振り変更を原則とする通知を発出した。しかし、現場からは年度末も重なり、勤務時間の割り振り困難

であること、動員が頻回続く実態にあることが寄せられた。このため、県職労から、割り振り変更が困難な場合は超過勤務対応とすべきとし、改善を求めた。その結果、2月16日の関係所管課事務連絡では、勤務時間の割り振り変更を原則とするものの、業務の都合上やむを得ない場合は超過勤務の対応となること等が示された。また、2月25日には、超過勤務予算措置に向け調整すべく、所要額の照会が行われている。

現場での待機時間が予定より延びた課題も挙げられたことから、実際の勤務実態に応じて勤務時間の割り振り又は超過勤務とするよう整理させた。集合場所への参集時の課題(交通機関を利用して通勤している職員が交通用具で参集した場合などの旅費対象、自家用車の駐車場料金の扱い)も改めて示された。

第五世代

年度末を迎える。2月はコロナ感染者が急増し、かつ鳥インフル対応など例年のない業務に追われた。年度末でただでさえ忙しい時期に乘じて業務が増し、多くの組合員が疲弊している。そうした状況の中、北京オリンピックが終わり、日々のピクでは各国のメダル争いに躍りとなる。日本では18個のメダル獲得と過去最高記録となったが、メダルに届かず涙を呑む選手の方がかかるに多い。メダリストが生まれるのは多くのアスリートの努力があつてこそだし、多くの方が献身的に支えたからに他ならない。鳥インフル対応には多くの組合員が従事し、岩手の畜産と食の安全を守った。一人が欠けただけでも成しえなかったものだ。現在も続くコロナ感染症対策も同様といえる。しかし、その頑張りには報いる勤務・労働条件となっていない。このため職員は疲弊する一方。これでは県組織は持たない。岩手のために頑張りましょう。職員がそれぞれの分野で活躍できるように労働条件の確保が急務だ。

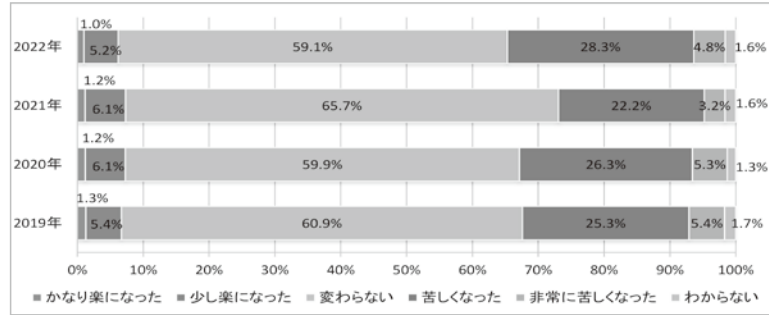
自治労県本部2022春闘アンケート

「県職労」集計結果

①生活の変化

Q5 昨年と比較して、あなたの生活実態は

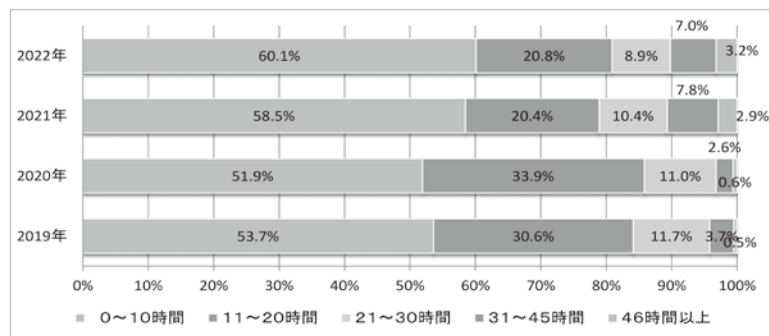
「苦しくなった」28.3% (+6.1)、「非常に苦しくなった」4.8% (+1.6) が合わせて 33.1% (+7.7)。「変わらない」59.1%。コロナ感染拡大によって働き方や生活面に大きな変化が生じた。鎮静化が見込めない中、様々な活動制限が求められ、個々の生活スタイルを維持できていない実態が伺える。2022 春闘では生活防衛の観点から全世代が実感できる賃金水準維持・改善は不可欠だ。



③職場・労働実態 (超勤・年休) (1)

Q11 あなたの平均時間外勤務は月何時間ぐらいですか

「0～10 時間」が 60.1% (+1.6) と全体の 6 割を占める一方、「46 時間以上」3.2% (+0.3) に拡大し、職場によっては長時間労働を強いられ、増加傾向にある。現場は長時間労働が依然解消されておらず、かつ、人員が増員されない現状において、抜本的な業務量の見直しや業務量の平準化も求められる。

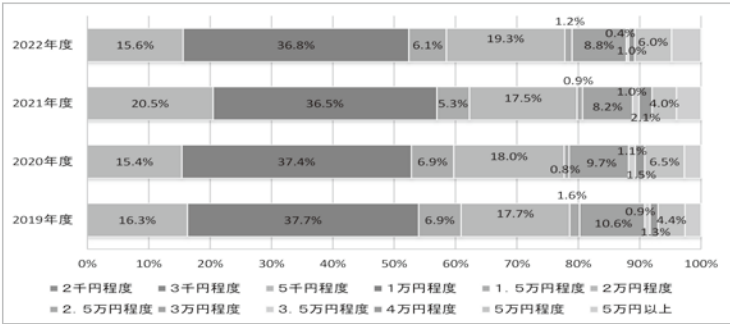


③職場・労働実態 (超勤・年休) (2)

②春闘要求額

Q6 あなたの2021賃金要求額は

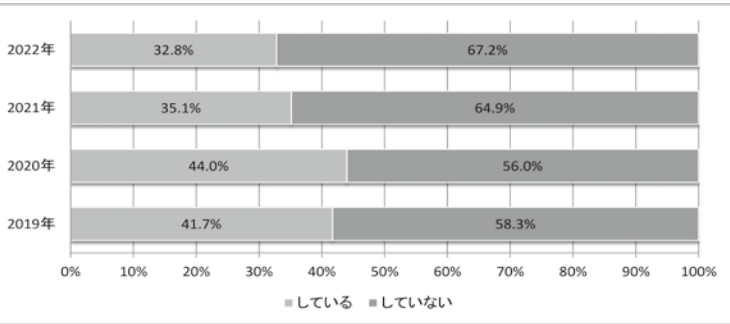
県職労全体の賃金要求額「中央値」は 12,096 円 (前年比+632 円)。県本部全体の春闘アンケート結果 (12,270 円) も踏まえ、県職労として 13,000 円以上の賃上げを要求する。県当局・人事委員会は、職員の賃上げ要求に対してしっかり報いる改善を行うべきだ。



③職場・労働実態 (超勤・年休) (2)

Q12 あなたはサービス残業をしていますか

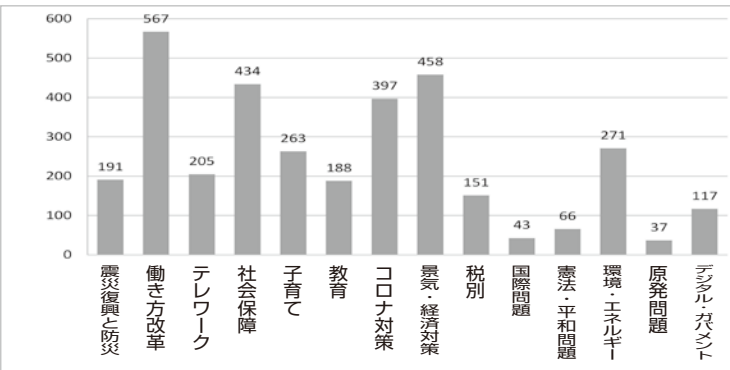
サービス残業を「している」が 32.8% (-2.3) となり、サービス残業の実態は減少に転じている。しかしながら、サービス残業を強いられる職場が存在するのも問題といえる。サービス残業撲滅のためには、サービス残業しない職員の意識が必要であり、かつ、職場実態点検と超勤全額支給のための取り組み強化が必要だ。



④制度政策要求

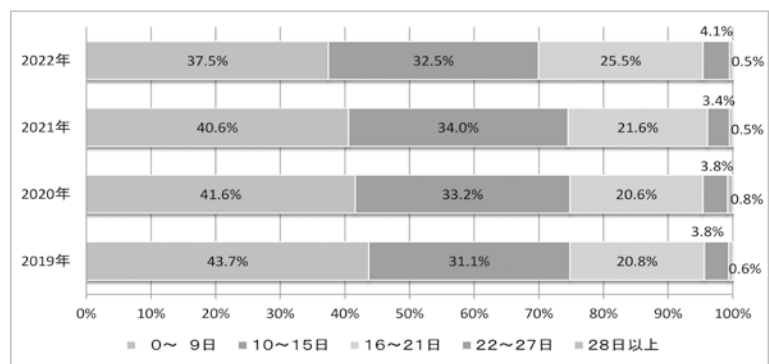
Q18 あなたが次の政策のうち何に関心がありますか (3つまで)

組合員が関心を持っている制度政策要求は、「働き方改革」567 人 (16.6%)、「景気・経済対策」458 人 (13.4%)、「社会保障制度」434 人 (12.7%)、「コロナ感染対策」397 人 (11.7%) が上位で、自身に関わる身近な政策に関心が集まっている。一方で、国際問題、平和・憲法問題、原発問題などは関心が低い。社会平和の課題も重要であることから、支部学習会等を設定し、課題に向き合えるよう意識して取り組みを行っていく必要がある。(件)



Q15 あなたが1月～12月に使用した年次有給休暇は何日ですか

依然として十分休暇を取得していない職員が見受けられる。原因の一つには業務量の多さによるものといえるが、周囲も忙しすぎて休みたくても休めない状況もあるようだ。計画的な年次休暇が取得できるよう、現場で取得できる環境であるか点検するとともに、休暇取得できる職場づくりとしての管理マネジメント強化も重要だ。



立憲民主党参議院比例第15総支部長 **鬼木まこと** おにき

鬼木まこと おにき

各種 SNS の「友だち」「フォロワー」になってください!

LINE QRコード

Twitter QRコード

Facebook QRコード

YouTube QRコード

onikimakoto.com

鬼木まこと自治労 検索

自治労は、第26回参議院選挙の全国比例区に「鬼木まこと」さんの擁立を決定しました。

組合員1,192人から回答をいただいた。コロナ禍で働き方が大きく変化したことも相まって、生活面で「苦しい」が全体の3割を超えている。生活改善が求められる厳しい状況が深刻化している。2022春闘では生活防衛の観点から全世代が実感できる賃金水準維持・改善が不可欠だ。県職労は賃金要求アンケート結果を踏まえ、13,000円以上の賃上げを要求する。

一方、超勤上限である46時間以上は3.2% (+0.3) と増加し、業務量のバランスに偏りがあるとみられる。長時間労働が依然解消されていないことから、人員が増員されない現状において、業務量の見直しや平準化が求められる。

サービス残業は昨年より減少したものの、依然としてサービス残業を強いられる職場が存在することは問題である。サービス残業撲滅に向け、職場実態点検を通じた改善が必要である。休暇取得は、ここ数年連続して9日以下が4割で推移している。休暇取得できる環境づくりとして人員増を含めた職場環境改善を求めていく必要がある。

組合員の関心事は、自身に関わる身近な働き方改革、感染症対策、社会保障・経済対策が占める。しかし、平和・憲法問題、原発問題などは依然として関心が低い。社会平和の課題を身近に感じられる取り組みを進めていく必要がある。

県職労では、継続課題やアンケート結果を踏まえ春闘方針を確立し、春闘交渉を通じて、課題解決に向けた取り組みを進めていく。